

「おとうさんね、あなたは素晴らしい本だと思ってるかもしれないけれどもね、ところで、あなたは今まで、一体どんな事をやってきたの？」

——言われたらもう何にも言えない。(笑) すみませんが、何の言葉も出てこない。それからは、高橋先生の名前も、本の事も、一切言わなかったんですよ。唯ひたすら、自分が毎日それをやろうと、やっている。

もう苦しいですよ、「おーい、それ取ってくれ」と呼びそうになって我慢したり、呼んでしまったりと、何回も繰り返し繰り返しやって、もう厭だなど思っても、「あー、やろうやろう」と自分に言い聞かせてやる。

そして、それから何年かした時に、実は女房が高橋先生の本を全部読んでいた訳です。私はそれまで気が付かなかったんですねえ……。

ですから私のやってる事を分かっていますよ。女房の方が偉いですよねえ。(笑)

一九八二年十一月

## 六、酒と煙草——無い物への執着

(ページ『反省の日々』参照)

自分が毎日やっている事で、酒とか煙草というのがありますね。

酒——これは、毎日最低一升五合飲む。(笑) 一体、何処に入ったのか知りませんけれど……。 (笑) 水を一升五合飲もうと思っても飲めませんよ。五合も入らないところがお酒だったら、二升位までは入ってしまう訳ですね。「人間の体って、一体どんなになってんのだろう？」と思うぐらい飲んでいた。

煙草は、プカプカ……一日八〇本(笑)、ハイライトを四箱も吸う訳ですよ。朝起きたら、床の中でもう一〇本や二〇本吸ってしまう。もうこうやって手から離さない。

で、仕事をしに会社に出て行く。会社で若い社員が煙草を吸っていると、「おまえ、タバコを吸いながら仕事をするなよ」

なんて言って、自分は吸ってる訳ですよ。(笑) まあ、いいころ加減ですね。

「それじゃあ、この二つをもう止めよう」なんて思っても、止められないですね。何回、繰り返し分らないですよ。

酒でも失敗する。「もう絶対、酒は止めた」と、何かテレビの薬のコマーシャル

やないですけど、二日酔いで気分が悪くて、もう酒は止めようと思う。もう苦しくてもしょうがない。二日酔いの薬を飲んでも駄目——。

そのうちに、「それじゃあ、仕方がないから迎え酒をやってみよう」とやってみたら、これがまたよく効く、薬なんかいらなそうですよ。(笑) スツと治ってしまう。

「あつ、これで効くんだったら大丈夫だ」と、また飲みたくなる。夜になると、元氣が出て来る。で、結局飲む。(笑)

その頃、家には酒の一升瓶の五本や六本はちゃんと置いてあった訳ですよ。

しかしこれは、目の前に置いておいたら、酒をまた飲んでしまうから、みんな人やつてしまおうと、ザーツと近所に配ったんですよ。タバコも全部上げた。もう何にも無い。もう飲みませんよね、これで——。

ところがどっこい、違うんですね。無ければ、無性に飲みたくなってくる。

それで、「おい、買って来い」と言う。買って来てくれないなら、自分で買って来る。で、また飲み始める。

しかし、これじゃあ、いけないので、もうとにかく徹底的に我慢する以外に無いと、

最初の方は我慢をしていた。そのうちに、一ヶ月、二ヶ月と経って、その時に気が付いたら、夜寝る時に、「疲れたから一杯ぐらいいいだろう」と、ウイスキーをちょつと飲んで寝たりと、始めたんですよ。そうしたら、守護霊が出て来た、

「あなたは酒を止める、タバコを止めると言っているが、一体どこを止めたと言うのですか」

「いや、酒は止めているよ」

「あなたはね、毎晩ちよこちよこやっているのは、あれは一体何なんですか？」(笑)

「あれは酒じゃないよ、ウイスキーというものだよ」(笑)

——汚いですよねえ、人間というのは……私は特に汚いかと思うんですよ。

煙草も実はそうですね。煙草はこれ、一番難しい。

実は、私は歯がよくないんですけどね、或る日、虫歯が痛くてどうにもならない事があったんですね。日曜で歯医者には休みだし、本当に困ってしまって、「もう痛い痛い……」と、自分の部屋で机の前に膝を立てて、こうやっただんですよ。

そうしたら、私の心の中から守護霊が、

「あなたはね、歯が痛い、歯が痛いと言っているが、それは分かる。

しかし、本当はあなたが痛いではありませんよ。あなたが自分だと思っている肉体の細胞が、痛いと感じているのですよ。

肉体というものは、あなたが支配しはいをしている。その支配しはいしてるあなたが、命令めいれいしてご覧なさい、痛いのは止まりますよ」

と、言うんですね。そして、

「あなたはまだ信用しんようしていませんけれども、あなたの体から、あなたの意識を別にちよつと離はなしてみるから、それを自分で、よく観みていなさい」

——どんな事をするのかと思っただんですね。そうしたら、自分の姿が観え始めた、「痛い、痛い」とやっている自分の姿が——。

「あれ？ 何故、自分の体が観えるのだろうか、おかしいな……。これが高橋先生の仰おんっている、もう一人の自分なのかな」と、そう思っただんですね。

そうしたら、その時に自分の体から出た自分は、歯はもう何にも関係ない訳ですよ。痛くもないんですよ、全然何ともないんですよ。そうしたら、

「あなた、よく分かりましたか、元に戻しますよ」

と戻って来た。——痛いんですよ。そうしたら今度は、

「あなたに言ったように、細胞に『あなた達は痛くないよ』と言ってご覧なさい」と言われた。自己暗示じこあんじみたいなものです。私は、

「虫歯よ、あなた達は痛いと言っているけど、実はあなた達は痛くないんですよ」と、言った訳です。そうしたらピタツと止まった。

まあ、前の晩から、あんなに痛かった虫歯が、例え自己暗示にしても、それで治なごってしまっただけのもの、またこれもおかしいものですね。

そのように、煙草にしても同じなんですね。その時守護霊が、

「あなた、どうしてもタバコ止められないみたいだね」

「そうだよ、止められなくて、こっちは困わづってるんだよ！」（笑）

「あなたはね、そこは生まれたら、僅わずかな時間なんだよ。そこを終わおわってから永ながくいるこちら（守護霊の世界・天上の世界）にはタバコなどありませんよ」

——そう言われたら、本当に無ないですよ。煙草が無なかったら、生きていけないの



すよ。煙草は止めないといけませんね。煙草は身体に、物凄く悪いんですよ。

今、アメリカでも煙草が身体に悪いと、もう大変ですね。煙草の業者が大変ですよ。今までアメリカ辺りでは、そういうものがスタイルになっていた訳ですよ。それが段々と廃ってきた、無くなってきた。それで、アメリカの煙草が余り始めた訳です。

さあ、困った——。それで、日本に売りつけている訳ですよ。今、外国の煙草が氾濫していますよね。何だかおかしいですね。

それを誰が吸っているんでしょう？ ——日本の女の人が吸う。しかも若い女の人  
が吸う。女子大生も吸ってる人多いですね。その辺の女子大に行ってみてご覧なさい、  
吸ってるから——。もうカッコ良さですね。

そして吸ったら、もう止められないですよ。煙草であつても、あれは一種の麻薬な  
んですよ。

結婚したらどうするんですか？ ——隠れて吸わなければいけなくなる。

しかし、煙草だけじゃない、この頃はビアホールに行ったら半分以上、若い女の人  
ばかり……。(笑) 男なんか恥ずかしくて入れないなんて言ってますよ。——そう

いう事じゃないんですね。

煙草だけじゃなくて、酒までやつてご覧なさい、尚、身体が悪くなつてしまう。

女の人は、臓器が違うんですよ。赤ん坊が出来てご覧なさい、健全な子供は出来な  
くなりませんよ。当然ですね、そんな事——。今、身体の弱い子供が、うんと多いん  
ですよ。

後で、困ってしまうのは、子供なんですよ。

これからの世の中を担っていくのは、子供達なんですよ。

これから先、人間は短命になっていくんですよ。——「あれ、老人天国になるん  
じゃなかったの？」と、そうはいかないですね。

実は、人間の身長の高い・低いもそうなんですよ。今はズーツと体が大きくなつ  
ていますよね。しかしこれからは、段々小さくなっていきますよ。輪廻している訳で  
すからね、そういう事を繰り返しているんですよ。

まあ、皆さんの中で、娘さんいる人、煙草吸わせない方がいいですよ。それには  
お母さんも、なるべく吸わないように心掛けなければいけないですね。

そして、この二つを止めた時に自分を振り返ってみたら、私は高橋先生にお会いするまでは、慢性下痢・腰痛が本当に酷かったんですね。腰が痛くてどうにもならない。「おまえ、仮病使ってるんじゃないのか」って言われるくらい、腰が痛かったんですね。夏なんか痛くて歩けないですよ。

それで会社を休んでみたりと、毎年そうだったのが、何時何処でどうなったのか、何とも無いということに気が付いた訳ですよ。

そして水虫も酷くて、冬でも雪駄を履いて歩く訳ですよ。それも何時の間にか無くなってしまった訳ですね。

そうすると、身体が悪いという事も、実は心が造り出しているんですね。

そういう一つの心のあり方によって、自分というものは、本当に素晴らしいものなんだということ、やはり、みんなが分からないといけないですね。

それが無いから、自分を卑下してみたり、それで疑問を持ってみたりと、いろんな事をする訳です。

私達は、やはり自分に正直でなければいけないということです。